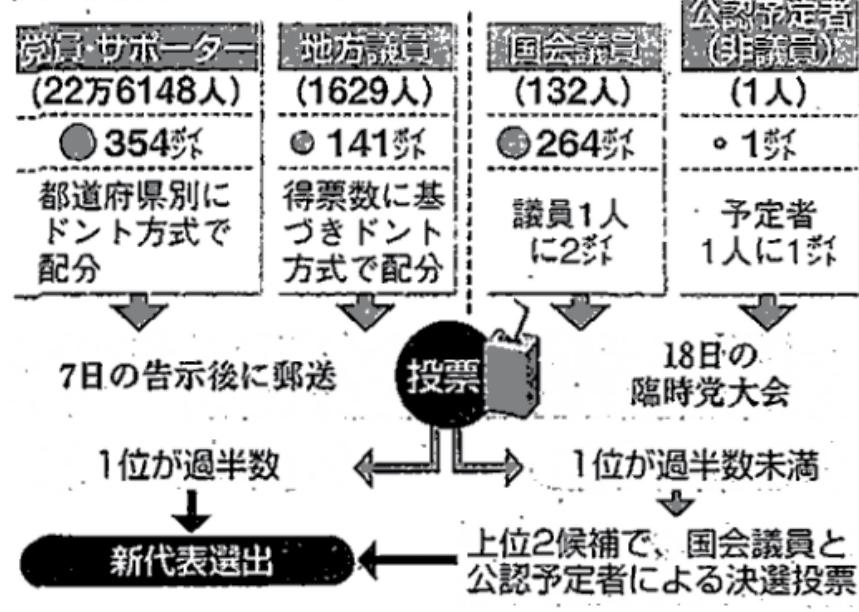


## 民主党代表選の仕組み



民主党代表選（18日投開票）の終盤情勢を産経新聞が調べたところ、岡田克也代表代行が一步リードしていることが13日、分かった。国會議員票は細野豪志元幹事長が45人前後で岡田氏をやや上回り、長妻昭元厚生労働相が30人超で追いかける。最大の票田となる党員・サポーターの動向次第で情勢は変わる可能性もあるが、細野、岡田両氏の決選投票となる公算が大きく、その場合は保守系、労働組合系双方に支持を広げる岡田氏が有利な情勢だ。

## 細野氏と決選投票へ

### 民主党選 終盤情勢

代表選（総数760票）は党員・サポーター（354票）が国會議員と次期参院選公認予定者（計264票）を上回り、地方議員（141票）とあわせ約3分の2を占める。18日は地

票が行われる。  
各陣営は、郵便で締め切りが16日必着の党員票など

の上積みに追い込みをかけ

るが、党員らの動向で飛び抜けた候補はいない情勢。

過半数を得る候補がなく、上位2人にに対する国會議員

衛副大臣ら中堅・若手の保

細野陣営は

長島昭久元防

水面下で始まっている。

だ動きも活発化している。

岡田陣営は野田佳彦前首相ら保守系議員のほか、辻元清美元国土交通副大臣ら

リベラル系の議員も多く、国會議員からも支持獲得は困難とみられ、陣営幹部は「地方議員・サポーター票で引き離し、1回目で過半数を狙う」との戦略を描く。

国会議員票で離されていく長妻陣営の幹部は「3位になったときにどちらに立つか、まとまって行動しない」と足元をみられる。要求するものは要求する」と早くもポストをめぐる攻防が